

家庭科教育における高齢者 高齢者の生活意識とその分類について

奥村美代子*・吉田道雄**・蜂谷千寿子***
米村敦子****・多久慶子*****・平野多嘉子*****

Advanced Age in Home Economics Education Living Awareness and its Classification

Miyoko OKUMURA, Michio YOSHIDA, Chizuko HACHIYA
Atsuko YONEMURA, Keiko TAKU, Takako HIRANO

(Received 1, October 1984)

A survey on living activities and awareness was conducted on 633 subjects(290 males and 343 females)ranging in age from sixties to eighties living in Kumamoto City, Miyazaki City and Buzen City of Kyushu island.Out of the results of the survey,this report deals with the living awareness of the subjects in detail,which is only briefly covered in another report.

1. Health and family are found to be the major concerns in the living awareness in the advanced age.
2. Regional differences were not perceived among the three cities.
3. Differences depending on sex or age were not found except for cases in which activities with physical efforts were involved.
4. Classification of subjects into five possible types by their living awareness is shown.

目 的

別報¹⁾において、これからの家庭科教育における課題の一つとして高齢期の生活をとりあげる必要を述べ、またそれが共学の題材となり得ることを指摘した。その視点から、一連の「家庭科教育における高齢者」についての研究を行っている。

本報の目的は、別報では省略した高齢者の生活意識について報告し、その生活意識の内容に従って志向型に分類することにある。

方 法

熊本市、宮崎市、豊前市に居住する老人クラブに属する633名(男290名・女343名)について、生活行

- ・ 家庭科
- ** 教育工学センター
- *** 北九州保育専門学校
- **** 宮崎大学教育学部
- ***** 尚綱短期大学
- ***** 九州女学院短期大学

動と生活意識について質問紙により調査した。調査した生活意識項目は、「生きがい」、「うれしいこと」、「いやなこと」、「一番時間を使っていると思うこと」、「家族のためにしていると思うこと」、「おもな仕事とっていること」、「将来のくらし」、「おもな趣味」の8項目であった。これらの項目について、被調査者に自分の感じていることを自由に託述してもらった。調査地点である3市は、九州の中・南・北に位置し、人口規模は、熊本市の55万人を筆頭に順次ほぼ半減している。表1に地域別・年齢階級別の対象者数を示した。

表1-1 調査対象者(地区名)

	熊本市	宮崎市	豊前市	計
男	125	86	79	290
女	175	124	44	343
計	300	210	123	633

結果及び考察

表1-2 調査対象者(性別, 年齢別)

	60歳代 前半	60歳代 後半	70歳代 前半	70歳代 後半	80歳代 前半	80歳代 後半	計
男	20	65	91	72	31	11	290
女	51	67	108	79	30	8	343
	71	132	199	151	61	19	633

1. 高齢者の生活意識について

生活意識の区分

生活意識の8項目について、高齢者が自由に回答した結果をカテゴリー毎に整理したところ、以下のようまとめることができた。

すなわち、「生きがい」では、表2-1に示すように「健康」、「長寿」、「おもな趣味」、「子・孫」の成長、「社会や地域での活動」、自分の「仕事勤務」、「ゲ

表2-1 生活意識項目の分類
—生活感情について—

(%)

		H 志向型		P 志向型		F 志向型		m 志向型		S 志向型	
生 き が い	男	健 康	19.0	趣 味	11.0	子 ・ 孫	8.6	友 人	2.8	社会活動 11.4	
		ゲートボール	3.4	仕事・勤務	2.8	家 族	1.4	宗教活動	2.1		
		庭 仕 事	2.8			夫 婦	0.7				
		長 寿	2.1			家事・手仕事	0.3				
		運 動	0.7								
	計		28.0		13.8		11.0		4.9	11.4	
生 き が い	女	健 康	15.2	趣 味	9.0	子 ・ 孫	9.9	友 人	4.1	社会活動 2.3	
		ゲートボール	3.5	仕事・勤務	3.0	家事・手仕事	3.2	宗教活動	4.1		
		庭 仕 事	2.9			家 族	2.3				
		長 寿	1.2			夫 婦	1.7				
		運 動	0.2								
	計				12.0		17.1		8.2	2.3	
う れ し い	男	健 康	24.4	酒・食事	4.0	子 ・ 孫	14.4	友 人	5.6	平 和 0.4	
		ゲートボール	1.6	趣 味	3.6	家 族	14.0	对 人	4.8		
		運 動	0.4	旅 行	2.8			会 合	1.6		
				仕 事 成 就	2.4						
				平 穩 無 事	1.2						
				勤 務	0.4						
				自 由	0.4						
	計		26.4		14.8		28.4		12.0	0.4	
い や な こ と	女	健 康	21.2	趣 味	2.8	子 ・ 孫	13.8	友 人	11.3	平 和 0.4	
		ゲートボール	0.7	旅 行	2.8	家 族	12.0	对 人	4.6	年 金 0.4	
				仕 事 成 就	1.8			会 合	0.7		
				勤 務	1.1						
				平 穩 無 事	0.4						
				自 由	0.4						
	計		21.9		9.3		25.8		16.6	0.8	
い や な こ と	男	病 弔	6.8	自体的不快	3.2	家 族	3.6	对 人	14.4	对 社会 5.2	
			0.8	不 成 就	1.2					福 祉 0.4	
	計		7.6		4.4		3.6		14.4	5.6	
い や な こ と	女	病 弔	9.2	不 成 就	1.7	家 族	6.4	对 人	3.9	对 社会 2.1	
			0.7	身 体 的 不 快	0.4					環 境 0.4	
	計		9.9		2.1		6.4		3.9	2.5	

ートボール、等の比較的重い運動、その他の軽い「運動」、庭仕事、家族、との交流、夫婦、のいたわり合い、友人、とのつきあい、他者とかかわりあう「宗教活動」、家庭向きの「手仕事や家事」の14回答種目に分類できた。同様に「うれしいこと」では、「健康」、子・孫、家族、友人、近所の人や知人とおしゃべりなどの「対人、関係」、趣味、旅行、すること、一生懸命していた「仕事が成就、す

ること、「勤務、につくこと」、「会合、に出ること」、「ゲートボール」、日々が「平穏無事、であること」、「自由、であること」、「平和、であること」、「年金、をもらうこと」、「運動」、好きな「酒や食事、をたのしむこと」、の17回答種目に分類できた。「いやなこと」では、「病氣、にかかること」、「身体がどこか不快、なこと」、「家族、対人、社会に対する、種々の不快、仕事が成就しない、こと」、「弔事、にあうこと、

表2-2 生活意識項目の分類

一日常主にしていると思うことについて

(%)

		H 志向型		P 志向型		F 志向型		m 志向型		S 志向型	
一番時間を使っていること	男	庭・畑仕事	10.0	仕事	16.6	子守・るす番	4.8			社会活動	5.2
		ゲートボール	16.9	読書・新聞	12.8	家事	4.1				
		睡眠	3.1	テレビ	11.4	手仕事	2.1				
		運動	3.1	趣味	5.5						
	計	33.1		46.3		11.0				5.2	
家族のためにしていること	男	庭・畑仕事	6.7	テレビ	14.3	家事	30.3			社会活動	1.2
		ゲートボール	9.0	読書・新聞	7.6	手仕事	4.4				
		睡眠	2.0	仕事・勤務	4.7	子守・るす番	3.8				
		運動	1.2	趣味	2.0						
	計	18.9		28.6		38.5				1.2	
家族のためにしていること	男	庭仕事	3.4	仕事・勤務	4.5	掃除	9.3	家族の世話	5.5	神仏参り	0.3
		畑仕事	2.1			手伝い	9.3				
						るす番	3.8				
						家事手伝	3.1				
	計	5.5		4.5		29.3		5.5		0.3	
家族のためにしていること	女	畑仕事	2.0	仕事・勤務	0.3	家事	32.9	家族の世話	5.0	神仏参り	1.7
		庭仕事	0.6			るす番	8.5				
						掃除	5.2				
						手伝い	3.8				
	計	2.6		0.3		53.3		5.0		1.7	
おもな仕事	男	庭仕事	7.9	仕事・勤務	22.8	家事手伝	5.9	地域の世話	9.0	社会奉仕	2.4
		畑仕事	7.2	趣味	3.1	家事	2.4			宗教活動	0.7
				雑用・身の廻り	1.7	手伝い	1.7				
				手仕事	1.0	家族の世話	1.7				
	計	15.1		28.6		12.4		9.0		3.1	
おもな仕事	女	畑仕事	5.0	手仕事	3.8	家事	43.4	地域の世話	2.0	宗教活動	0.3
		庭仕事	4.7	雑用・身の廻り	1.7	家族の世話	3.2				
				仕事・勤務	3.2	手伝い	1.5				
				趣味	0.6	家事手伝	1.2				
	計	9.7		9.3		49.3		2.0		0.3	

表 2-3 生活意識項目の分類
—将来の暮らしと趣味について—

(%)

	H 志向型	P 志向型	F 志向型	m 志向型	S 志向型
将来の暮らし	健康になること 0.4	年金 10.8 今のままで満足 1.6 住生活 1.2 自己発展 0.8	家族 2.0	対人 0.4	福祉 5.2 医療 4.4 対社会 2.0 経済 1.6 環境 1.6 施設 1.2 税金 1.2
	計 0.4	計 14.4	計 2.0	計 0.4	計 17.2
	健康になること 0.4	年金 9.9 住生活 3.2 今のままで満足 1.1 自己発展 0.4	家族 0.7	対人 1.1	福祉 6.7 医療 3.5 対社会 1.8 環境 1.1 物価 1.1 施設 0.7 税金 0.7 経済 0.4 社会 0.4
計 0.4	計 14.6	計 0.7	計 1.1	計 16.4	
趣味	ゲートボール 13.1 軽いスポーツ 4.8 やや重いスポーツ 2.4 散歩 1.4 踊り 0.7	読書 16.6 民謡・詩吟 4.1 音楽・絵画 4.1 テレビ 3.8 俳句・短歌 3.4 映画写真 3.4 旅行 3.4 パチンコ 3.1 書道 2.8 仕事 0.7 コレクション 0.7 茶・花道 0.3	園芸 24.5 手仕事 2.1	囲碁将棋 11.4	
	計 22.4	計 42.4	計 26.6	計 11.4	計 0
	ゲートボール 9.6 踊り 6.1 散歩 1.2 軽いスポーツ 1.2 身体訓練 0.5 やや重いスポーツ 0.3	民謡・詩吟 13.7 読書 8.7 茶・花道 5.8 俳句・短歌 5.5 書道 3.8 テレビ 3.5 音楽・絵画 1.7 旅行 1.7 パチンコ 1.7 仕事 0.3 映画・写真 0.3 コレクション 0.3	手仕事 20.4 園芸 12.8 家族 0.6		社交 1.2
計 18.9	計 47.0	計 33.8	計 0	計 1.2	

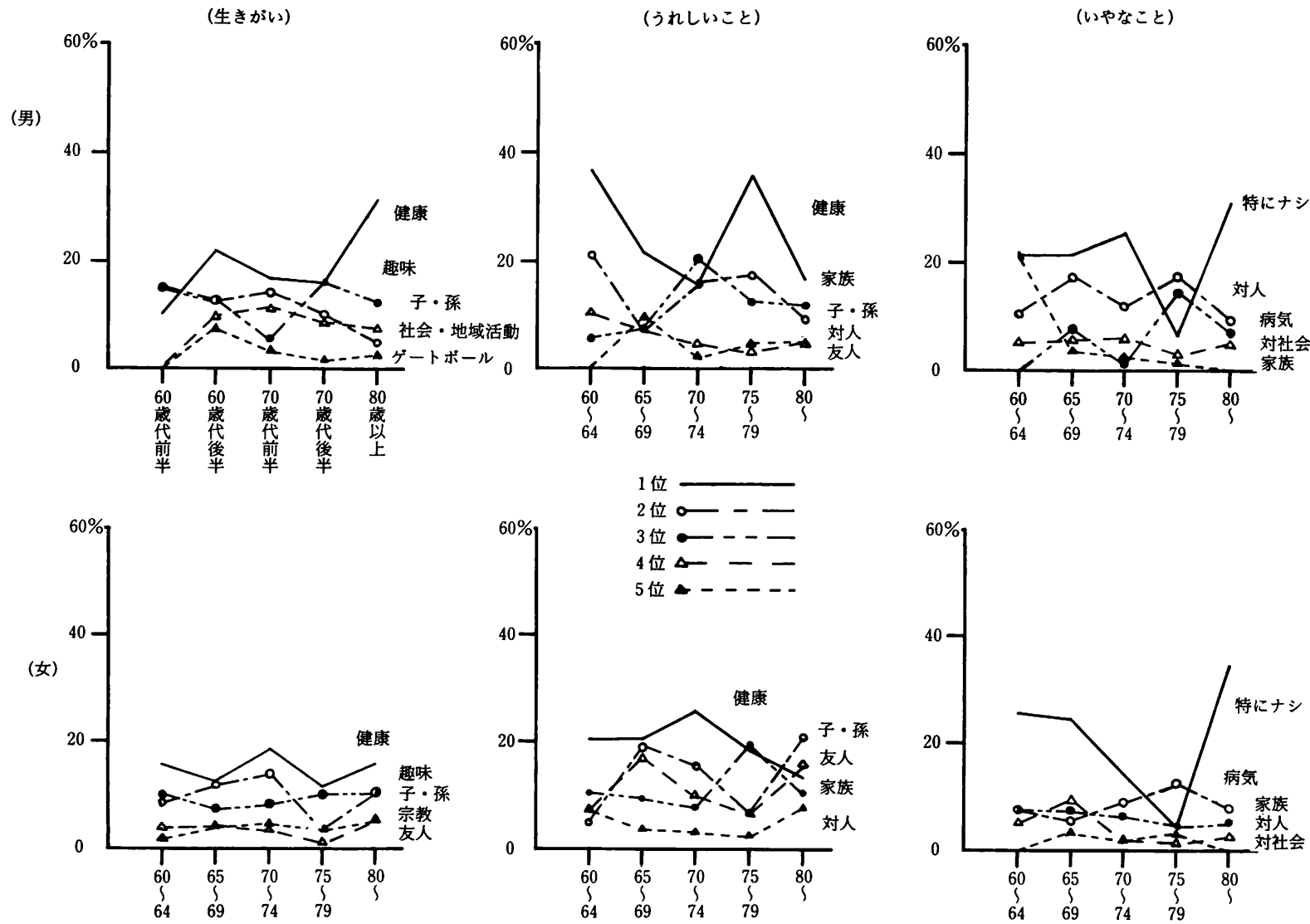


図1-1 生活意識項目の性別・年齢・階級別出現率
 ——生活感情について——

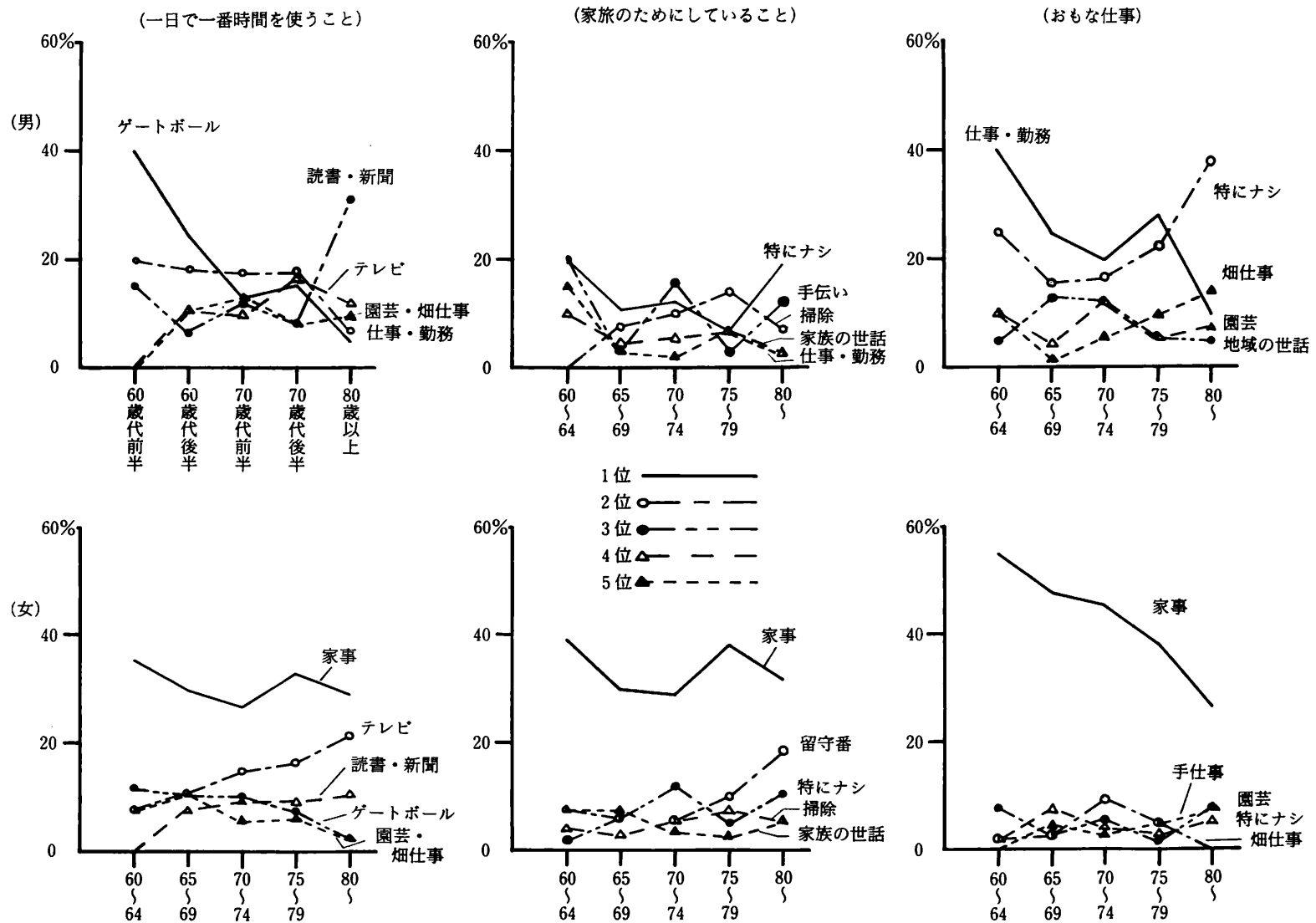


図1-2 生活意識項目の性別・年齢階級別出現率
 —日常生活にしていると思うことについて—

「福祉」に対する不満、「環境」に対する不満、の9回答種目に分類できた。以上と同様にして、表2-2に示したように、「一番時間を使っている」と思っていることは12回答種目に、「家族のためにしている」と思っていることは12回答種目に、「おこな仕事」と思っていることは14回答種目に分類できた。同様に表2-3に示すように、「将来の暮らし」では16回答種目に、「趣味」では23回答種目に分類することができた。これらの表中の数字は、後に述べる志向型の出現率を示したものである。

なお全項目を通じての無回答率は、性別では男16.3%と女13.1%で男がやや高く、年齢階級別では60才代で14.2%70才代で13.1%と80才代で22.5%であり、80才代になると増加を示した。

生活感情

高齢者の生活感情を「生きがい」「うれしいこと」「いやなこと」の3項目に対する回答によって検討した。

図1-1の「生きがい」「うれしいこと」の第1位はいずれも「健康」であり、「いやなこと」はその反対の病気であった。これら2項目で次に高位を占めていたのは、「子・孫」や、「家族」や「友人」との人間関係についての関心であり、「いやなこと」では、これに関連して「対人」や「家族」をあげていた。以上は男女ともに似た傾向を示していた。「社会」や地域での活動は男が女より多くあげていた。しかしながら、これら3項目のいずれについても有意な性差は認められなかった。

表2の「生きがい」と「うれしいこと」において、健康に関連する回答種目の出現率は、それぞれ男28%、女23%と男26%、女22%を示し、表中の回答種目のなかで高率を示した。

60才以上の高齢者を調査対象にした、全国調査の「老後生活に関する世論調査」²⁾では、高齢者の「生きがい・生活のハリ」として「家族」、「職業・仕事上のこと」、「趣味・娯楽」等が上位にあげられている。また鹿児島における「高齢者の生活実態と意識に関する調査」³⁾では、「生きがいや楽しみ」として、「家族」、「趣味・旅行」、「友人」等が上位にあげられ、熊本市における調査⁴⁾でも、「子・孫」、「家族」、「仕事や勉強」等が「生きがい」の上位にあげられている。その他の同種の調査も殆どこれらと類似した結果を示している。しかしながら本調査では、前述のように、一位には「健康」があげられ、既存の調査と異なる結果を示している。この差異は、本調査においては通常用いられる回答項目の選択に依

るのではなく、被調査者が自ら自由に記述する調査方法を採用したために生じたことによるのではなからうか。生活感情の基本に、生物の自然な反応として強い自己保存意欲があって、高齢者の「健康、保持への自然な強い心情がそのまま現れたものと思われる。

日常主にしていると思うことについて

高齢者が自分の生活で主にしていると思っている事柄を、「一日で一番時間を使うこと」、「家族のためにしていること」、「おこな仕事」の3項目に対する回答によって検討した。図1-2を通覧すると、女の「家事」が目立っている。これに対して男は女ほど特に集中するものがなく、「一日で一番時間を使っていること」では「ゲートボール」、「おこな仕事」では「特になし」と「仕事・勤務」が目立っていた。別の調査による高齢者の実際の行動においても、女が家事行動に集中し⁵⁾、男が各種行動に拡散⁶⁾している。この3項目については、いずれも1%以下の危険率で有意の性差が認められた。 $df=11$, $\chi^2=37.15$, $df=11$, $\chi^2=41.99$, $df=13$, $\chi^2=67.29$ 。

加齢の影響については、年齢階級の上昇に伴う女の家事の減少が明瞭である。また、「ゲートボール」、「仕事・勤務」、「特になし」や、女の「テレビ」と「留守番」、男の「庭仕事」が加齢によって変化する傾向が認められる。なお、地域による差は認められなかった。

将来の暮らし

図1-3の「将来の暮らし」においては、男女ともに「特になし」が一位を占め、特に女が高率を示した。「年金」については、男が加齢とともにやや減少する傾向を示した。なお、性差や地域差による有意差は認められなかった。

実際の調査場面において「いろいろありますが云ったっちゃしょうがありません（云っても仕方がない）」という回答がしばしばあった。「特になし」の中には、現状に満足というよりは、将来をあきらめている状態がかなり含まれていると見るほうが、高齢者の実際の生活意識に近いのではなからうか。表4の「将来の暮らし」の項でも、「福祉」、「医療」、「環境」等社会生活に関して多様な要求を持つものの、いずれも低い出現率である。

趣味

図1-4の「趣味」で、男は「園芸」、「囲碁・将棋」、女は「手仕事」、「民謡」の出現率が高く、男女ともに読書をあげていた。回答種目の数は、表2-3の「趣味」の項目に示すように、今回の調査項目

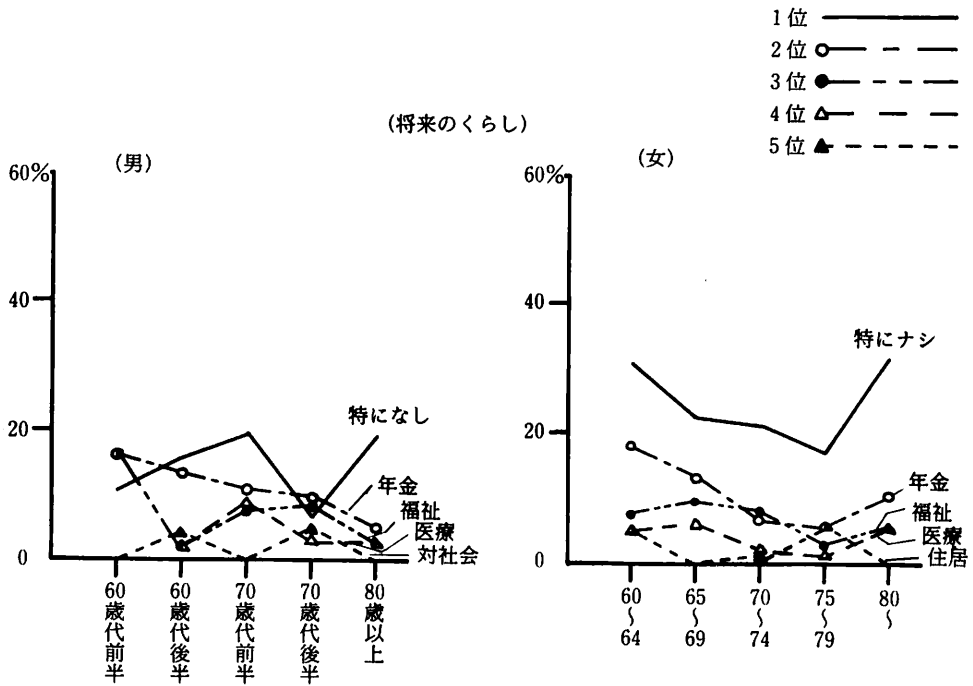


図1-3 生活意識項目の性別年齢階級別出現率
—将来の暮らしについて—

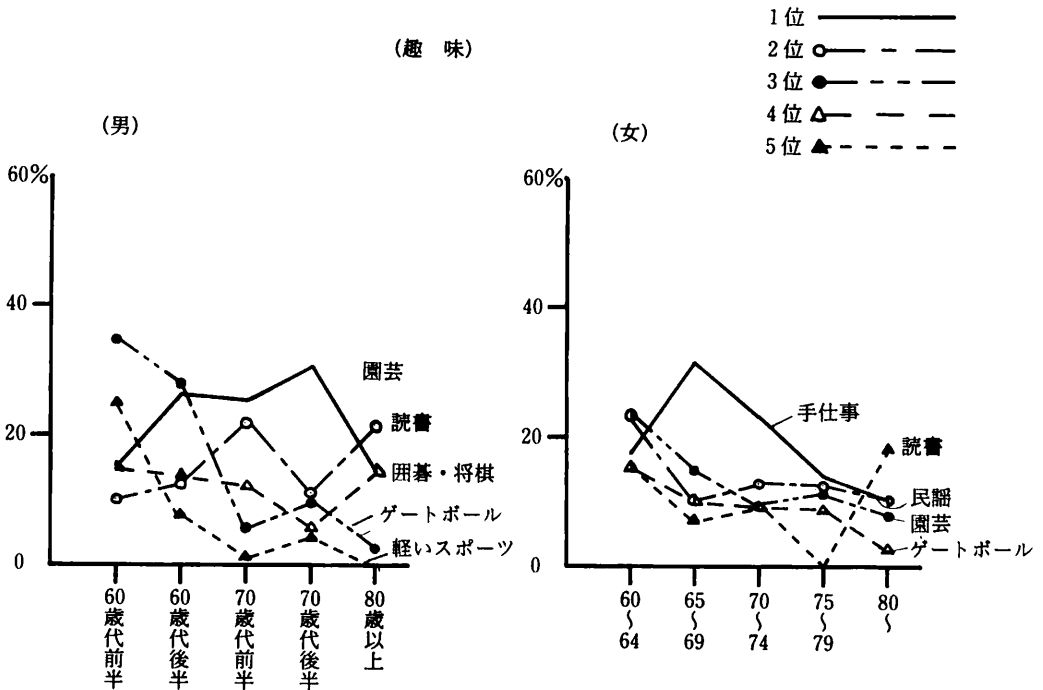


図1-4 生活意識項目の性別・年齢階級別出現率
—趣味について—

の中でもっとも多く、多彩な活動をしていることがうかがわれた。表3に、性別・地域別の趣味活動を示した。今回の調査項目中で、もっとも地域差が現れている項目であったが、有意差を認めるには至らなかった。男女間では危険率1%で有意差が認められた。(df=22, $\chi^2=58.67$)。

本調査における上位の回答種目は、鹿児島における調査³⁾の趣味の項に示された種目とほぼ同様であった。高齢者の社会教育活動や老人クラブ活動として趣味をとりあげることが多く、各地で類似の趣味教室が開催されているため、同じような趣味となるのであろう。趣味としてあげた種目は多いが、実際に趣味活動にあてている時間は「一番時間を使っていること」の項をみると、ほとんど「テレビ」、⁴⁾「庭仕事」、⁵⁾「読書・新聞」で占められ、その他の趣味に使っている時間は少ない。

表2を通覧して、本調査の高齢者の生活意識全体を検討すると、「健康」と「家族」に対する関心の強さがうかがわれる。これは、「老人の生活と意識に関する国際比較」⁶⁾で、「老後生活のイメージ」として、「健康が衰えたあとの生活」を第一位にあげ、また「一番大切なもの」で第一位に「家族・子供」をあげている日本の高齢者一般と、共通する特徴を示していると見ることができよう。

2. 志向型による生活意識の分類

応答傾向の推定

前述のように、生活意識に関する8項目のそれぞれについて高齢者が自由記述した回答内容を、カラゴリーによって14~25の回答種目に分類した。「生きがい」項目の中で、「健康」、⁷⁾「長寿」、⁸⁾「庭仕事」、⁹⁾「体をよく動かす」¹⁰⁾「ゲートボール」、その他の「運動」の5種目のどれかをあげたものは健康(H)志向の応答

とみなし、「趣味」、自分の「仕事や勤務」、のどれかをあげたものは個人(P)志向とみなし、「子や孫」の成長、「夫婦」のいたわり合い、その他「家族」との交流、家庭向きの「手仕事や家事」のどれかをあげたものは家族(F)志向とみなし、「友人」、¹¹⁾「宗教活動」のどれかをあげたものは対人(M)志向とみなし、各種の「社会や地域での活動」をあげたものは社会(S)志向とみなした。

他の項目に対する回答種目についても同様に、表2~4に示すようにH志向・P志向・F志向、M志向、S志向の5つの志向に分類した。表2に各項目における5志向の出現率を示した。

志向型の判定

各被調査者について、8項目の各項目毎に、その回答種目が5志向のいずれに属するかを推定した。例えばNo・269の被験者の場合は、8項目について「生きがい」がH志向、「うれしいこと」がH志向、「いやなこと」がH志向、「一番時間を使っていること」がH志向、「家族のためにしていること」がF志向、「おまな仕事」がP志向、「将来のくらし」がS志向、「趣味」がP志向であった。すなわち、H志向が4個、P志向が2個、F志向が1個、S志向が1個、M志向が0であった。そこでこのNo・269の場合は、H志向がもっとも強く出ているとしてH志向型と判定した。もしも優越する志向がない場合は中間型とした。今回の調査対象ではM志向型とS志向型に属する高齢者はいなかった。各志向型の出現率及び生活行動と各志向型との関係は、別報¹²⁾に詳述してある。

高齢者の持つ以上のような生活意識を理解して、日常生活行動に対応する適切な援助のあり方を考えてゆくことは、家庭科教育における今後の課題と

表3 趣味の地域別・性別出現順位

(男)						男女) (女)					
熊本市		宮崎市		豊前市		熊本市		宮崎市		豊前市	
1, 園芸	読書	園芸	読書	園芸	読書	1, 手仕事	手仕事	園芸	読書	園芸	読書
2, 読書	園芸	園芸	読書	読書	園芸	2, 民謡	園芸	民謡	民謡	民謡	民謡
3, ゲートボール	ゲートボール	ゲートボール	ゲートボール	ゲートボール	ゲートボール	3, 園芸	読書	手仕事	手仕事	手仕事	手仕事
4, 囲碁・将棋	囲碁・将棋	囲碁・将棋	囲碁・将棋	囲碁・将棋	囲碁・将棋	4, 踊り	民謡	俳句・短歌	俳句・短歌	俳句・短歌	俳句・短歌
5, 音楽	軽いスポーツ	軽いスポーツ	民謡	民謡	民謡	5, 読書	ゲートボール	テレビ	テレビ	テレビ	テレビ
6, 映画・写真	重いスポーツ	重いスポーツ	テレビ	テレビ	テレビ	6, ゲートボール	茶・花道	読書	読書	読書	読書
7, 書道	手仕事	軽いスポーツ	パチンコ	パチンコ	パチンコ	7, 茶・花道	軽いスポーツ	ゲートボール	ゲートボール	ゲートボール	ゲートボール
8, パチンコ	民謡	旅行	旅行	旅行	旅行	8, 俳句・短歌	音楽	旅行	旅行	旅行	旅行
9, 散歩	俳句・短歌	パチンコ	パチンコ	パチンコ	パチンコ	9, 書道	パチンコ	交際	交際	交際	交際
10, 俳句・短歌	音楽	書道	書道	書道	書道	10, テレビ	踊り	パチンコ	パチンコ	パチンコ	パチンコ

して重要になると思われる。

要 約

本報は、別報¹⁾の「家庭科教育における高齢者、一高齢者の生活行動と行動に影響する生活意識について」のなかで指摘した高齢者の生活意識について報告したものである。

九州の熊本市、高崎市、豊前市に住む高齢者633名(男290名、女343名)について調査を行った結果、以下の点が明らかとなった。

- 1、高齢者の生活意識の基本に、健康と家族への関心が深いことが認められた。
- 2、生活意識の地域差は認められなかった。
- 3、実際の行動を伴う項目以外は、性差及び加齢による差は認められなかった。

- 4、生活意識を5つの志向型にわけることができた。

引用文献

- 1) 奥村美代子他4名 「家庭科教育における高齢者—高齢者の生活行動と行動に影響する生活意識について—」日本家庭科教育学雑誌投稿中
- 2) 「老後の生活に関する世論調査」昭和44年総理府統計局
- 3) 「高齢者の生活実態と意識に関する調査」昭和52年鹿児島県教育委員会
- 4) 佐藤静一他2名 「高齢者の社会教育活動に関する研究」熊本大学教育学部紀要、25号、人文科学(1976)
- 5) 奥村美代子 「高齢者における家事行動」家政学雑誌No34, Vol 9, (1983)
- 6) 「老人の生活と意識に関する国際比較調査結果の概要」昭和57年総理府老人対策室